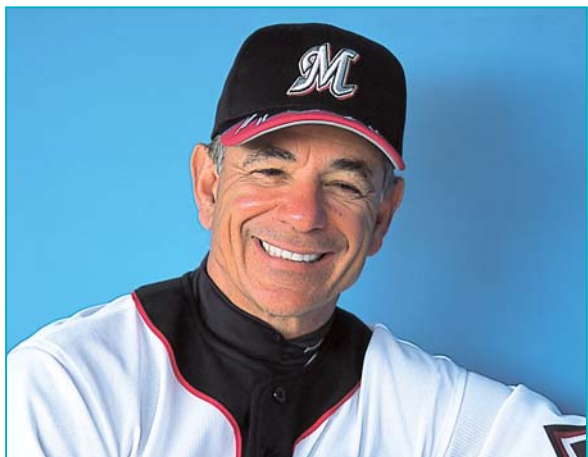


OFォーTALK

ボビー・バレンタインさん

[千葉ロッテマリーンズ監督]



長らく優勝から遠ざかっていた球団が、昨年31年ぶりに日本一に輝いた。監督が行ったのは、球団を内部から変えること。選手の長所を見極め、自信を持たせること。教師にも通じるその姿勢を語ってくれた。

教師になりたかった

僕はね、野球監督にならなければ、教師になりたいと思っていました。もしそうなったら、数学や心理学を教えていたのではないかな。教えるというのは、とても素晴らしいことです。僕は教師にはなりませんでしたが、野球監督になって、選手たちに野球をコーチすることで「教える」ことをしていると思っています。教えるというのは一方的に話すのではなくて、実は理解してもらうことなんです。

僕が初めて日本に来て、千葉ロッテマリナーズの監督を務めた'95年頃は、日本のプロ野球界は監督やコーチが一方的に話をして、選手は言われたことをしっかりと守ってプレーするというシステムがとられていました。

けれども今は違います。双方のコミュニケーションが必要なのです。理解をし合うことですね。ロッテの選手たちにも理解してもらいたいので、僕は選手たちに向かう時には何が正しいか、何が間違っているかを根底において話をしています。選手たちも僕が考えていることを感じ取ってくれます。

僕自身、若い頃は、選手は監督である僕の言葉を聞き漏らさないだろうと思っていました。でもね、違うんですよ。僕らの言葉の中身を理解してもらうことが一番重要なんだということを、日本で監督をして分かったんです。

理想的な監督とは

理想的な監督の姿がこうあるべきだとは決め付けてはいません。選手のことを見て、監督としてその時どうすべきかを考えます。

大事なものは愛する者をよく見ることなんです。教師だったら生徒でしょうね。僕の場合はもちろん選手たちです。口先だけで褒めるのではなくて、選手の長所を見極め、信頼しています。そして、彼らを見る自分の目を信じています。

それからただ観察するのではなくて、僕に見られていることを選手たちに感じさせるのも重要です。それは彼らに僕がいつも味方についているから大丈夫と安心してもらうためです。ネガティブなことは言いません。僕は選手たちによく声をかけるようにしています。「歯の具合はどう?」「昨日に比べて力強いスイングになったね」などとね。選手たちもいつも自分のことを気にかけていてくれると思うでしょう。そのためには情報収集も必要ですよ。

そうやって、選手個人の部分を見ながら、それだけでなくチームとして全体を見るようにしています。

自身を高めること

もし、今僕が教師だったら、子供たちに彼らが知らないことをまず教えたいですね。それから夢はかなうんだということを伝えたい。僕は千葉ロッテマリナーズ

の監督に再び就任したときに、「チャンピオンになると信じてほしい」と語りました。そして選手たちは僕の思いを理解してくれて、夢を持ち、約30年間優勝から遠ざかっていたチームが現実にチャンピオンになったのです。

学校の教師の皆さんにも、子どもたちを把握し、理解し合って、責任をもって行動してほしいですね。

オフは

僕は自分のオフを楽しく過ごそうと思って、毎回違うことに挑戦しています。挑戦は楽しい。自分の人生の中で経験が一番大事だと思っています。だから、オフのときには様々な経験を可能な限りできるような機会を作っているんです。



▲選手たちに声援をおくるバレンタイン監督

「チームの心をひとつに
まとめあげるには
ひとりひとりのメンバーに声を
かけていくことから始まる」
The manager is a team builder.

ボビー・バレンタイン | プロフィール

1950年5月13日アメリカ・コネチカット州生まれ。南カリフォルニア大学入学後、メジャーリーグ入りし、ドジャースに入団。エンゼルス、パドレス、メッツ、マリナーズを経て'79年に引退。その後、レンジャース監督に就任。'95年に千葉ロッテマリナーズ監督として来日。1年で退団し、メッツの監督を務めるが、2003年オフにロッテの監督に復帰し、2005年には31年ぶりに優勝に導いた。

教えることは実は 理解してもらうことなんです。